

みやぎの交通事故

令和6年中

都道府県別交通事故死者数

人口10万人当たりの死者数

順位	都道府県名	人数	順位	都道府県名	人数
1	徳島県	4.748	25	新潟県	2.587
2	愛媛県	4.028	26	群馬県	2.576
3	山口県	3.929	27	大分県	2.555
4	和歌山県	3.812	28	広島県	2.484
5	宮崎県	3.743	29	静岡県	2.475
6	青森県	3.632	30	岩手県	2.408
7	岐阜県	3.625	31	山形県	2.339
8	山梨県	3.518	32	富山県	2.185
9	鹿児島県	3.422	33	千葉県	2.094
10	秋田県	3.392	34	宮城県	2.076
11	香川県	3.348	35	長崎県	2.052
12	茨城県	3.327	36	京都府	2.051
13	岡山県	3.249	37	北海道	2.042
14	熊本県	3.218	38	兵庫県	2.030
15	栃木県	3.163	39	滋賀県	1.990
16	高知県	3.153	40	愛知県	1.886
17	福井県	3.091	41	福岡県	1.783
18	佐賀県	3.019	42	奈良県	1.775
19	沖縄県	2.997	43	埼玉県	1.541
20	福島県	2.886	44	大阪府	1.449
21	長野県	2.844	45	島根県	1.385
22	鳥取県	2.793	46	神奈川県	1.181
23	石川県	2.705	47	東京都	1.036
24	三重県	2.664		全国	2.142

※人口は、令和5年10月1日現在の推計人口（総務省）

市区町村別の死者数

市区町村名	死者数	市区町村名	死者数
仙台市	16	大河原町	1
青葉区	6	村田町	0
宮城野区	3	柴田町	1
若林区	4	川崎町	0
太白区	2	丸森町	0
泉区	1	亘理町	0
石巻市	1	山元町	1
塩竈市	1	松島町	0
気仙沼市	2	七ヶ浜町	0
白石市	3	利府町	2
名取市	1	大和町	1
角田市	3	大郷町	1
多賀城市	0	大衡村	0
岩沼市	0	色麻町	0
登米市	2	涌谷町	1
栗原市	3	加美町	0
東松島市	0	美里町	0
大崎市	3	女川町	0
富谷市	0	南三陸町	0
蔵王町	2	高速自動車道	2
七ヶ宿町	0	総合計	47

人口10万人当たりの死者数

4人以上	3人台	2人台	2人未満
------	-----	-----	------

一人ひとりが身につけよう
ルールとマナー

宮城県警察本部

交通事故発生状況（宮城・東北・全国）

●宮城県

区分	発生件数	死亡事故		負傷者数		
		件数	死者数	重傷	軽傷	計
令和6年	3,785	47	47	444	4,121	4,565
令和5年	4,033	44	47	463	4,469	4,932
増減数	-248	3	0	-19	-348	-367
増減率	-6.1	6.8	0.0	-4.1	-7.8	-7.4
1日当たり	10.4	0.1	0.1	1.2	11.3	12.5

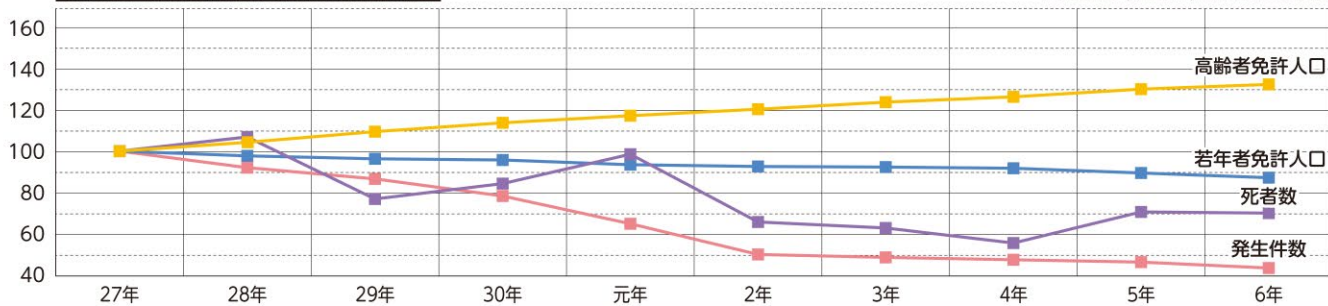
●東北・全国との比較

区分		令和6年	令和5年	増減数	増減率	1日当たり
宮城県	発生件数	3,785	4,033	-248	-6.1	10.4
	死者数	47	47	0	0.0	0.13
	負傷者数	4,565	4,932	-367	-7.4	12.5
東北	発生件数	13,978	15,003	-1,025	-6.8	38.3
	死者数	224	248	-24	-9.7	0.61
	負傷者数	16,805	17,864	-1,059	-5.9	46.0
全国	発生件数	290,895	307,930	-17,035	-5.5	797.0
	死者数	2,663	2,678	-15	-0.6	7.30
	負傷者数	344,395	365,595	-21,200	-5.8	943.5

宮城県の交通情勢の推移

（指数） 過去10年間の交通事故・免許人口等の推移

※指数は平成27年を100とした数



区分	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和 2年	令和 3年	令和 4年	令和 5年	令和 6年	
交通事故	発生件数	8,624	7,986	7,491	6,815	5,675	4,487	4,286	4,117	4,033	3,785
	死者数	66	71	51	56	65	44	42	37	47	47
	負傷者数	10,913	10,057	9,353	8,509	6,941	5,483	5,182	4,912	4,932	4,565
免許人口	1,539,353	1,542,955	1,545,353	1,546,701	1,544,213	1,542,518	1,541,377	1,540,919	1,539,586	1,535,001	
	若年者	116,554	114,591	113,011	112,074	109,733	108,706	108,016	107,546	105,041	102,368
	高齢者	297,209	312,391	327,244	340,355	350,534	360,364	369,586	377,290	387,897	395,375
車両台数	1,859,367	1,863,192	1,867,411	1,865,935	1,864,810	1,858,974	1,859,448	1,857,075	1,858,791	1,855,250	

※若年者は24歳以下、高齢者は65歳以上 ※車両台数（原付以上）は各年3月末現在

過去5年間の主な交通事故発生状況

区分		令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
子供	件数	253	220	227	244	250
	死者数	0	0	0	0	0
	傷者数	309	261	266	289	289
高齢者	件数	742	654	570	595	551
	死者数	20	24	18	19	26
	傷者数	785	701	596	629	583
歩行者	件数	549	513	505	488	511
	死者数	15	13	18	11	13
	傷者数	553	513	496	489	507

区分		令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
自転車	件数	664	586	624	577	564
	死者数	4	5	3	3	6
	傷者数	665	588	630	577	563
若年運転者	件数	588	586	559	520	469
	死者数	5	7	1	7	7
	傷者数	765	739	691	672	601
高齢運転者	件数	1,148	1,002	1,076	1,036	1,062
	死者数	14	13	13	14	12
	傷者数	1,402	1,148	1,271	1,247	1,265



見えないを 見えるに変える 反射材

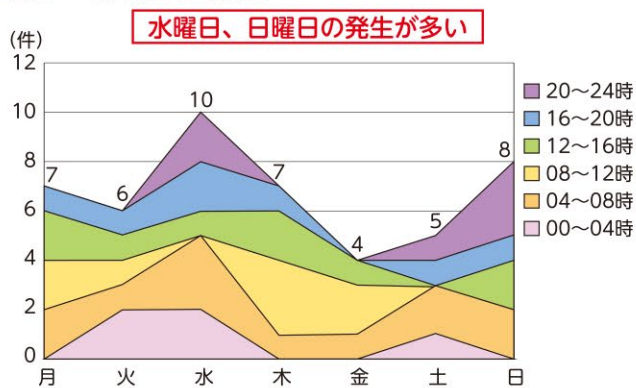
交通事故発生状況

いつ？

●時間帯別発生状況

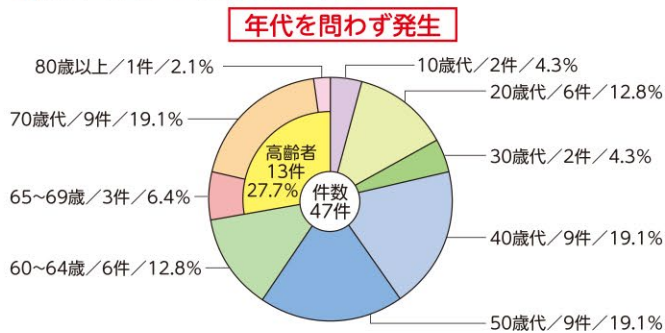


●曜日・時間別発生状況

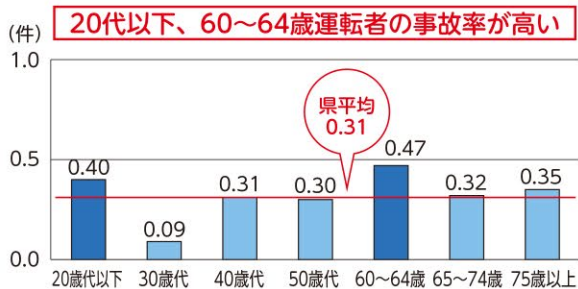


だれが？

●第1当事者の年代別発生状況

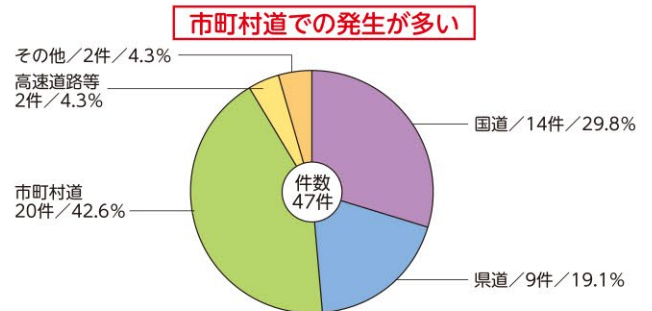


●免許人口1万人当たりの発生状況

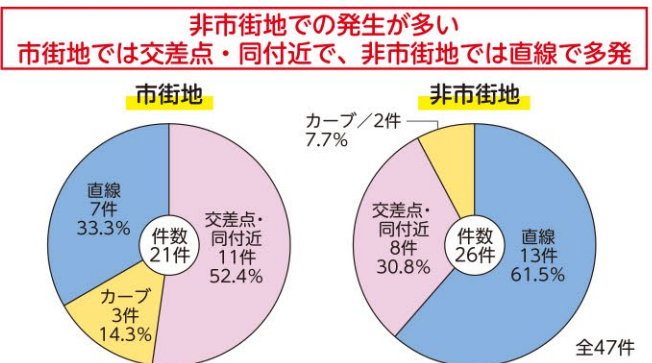


どこで？

●道路別発生状況

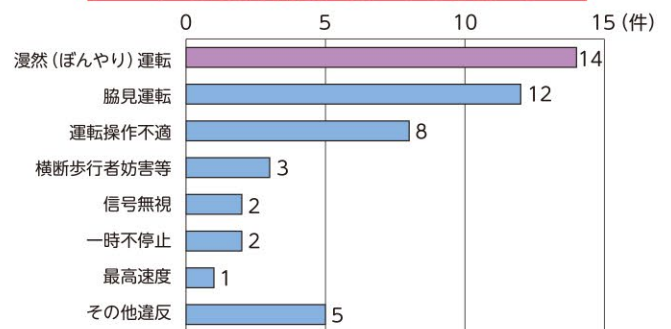


●道路形状別発生状況



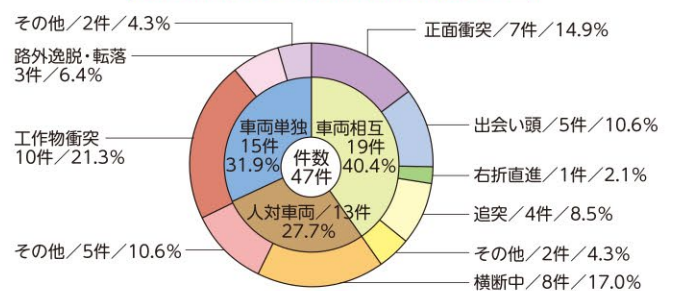
どんな原因で？

●ぼんやり運転や脇見運転による事故が多い



どんな事故？

●車両単独の工作物衝突事故が多い



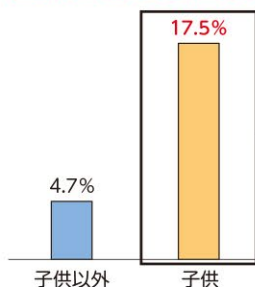
危険です ながらスマホで 踏むペダル

子供の事故

中学生以下の子供が死傷した交通事故

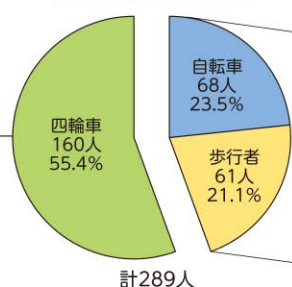
●シートベルト等非着用率

子供の非着用率が高い



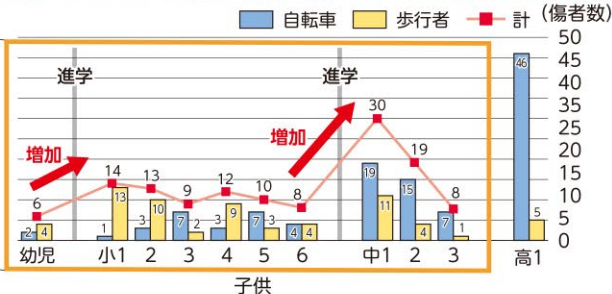
●当事者別子供の傷者数

四輪車が多い



●自転車・歩行者の学年別傷者数

進学タイミングで傷者数が増加 学年が上がるほど自転車が増加傾向



高齢者の事故

高齢者が死傷した交通事故

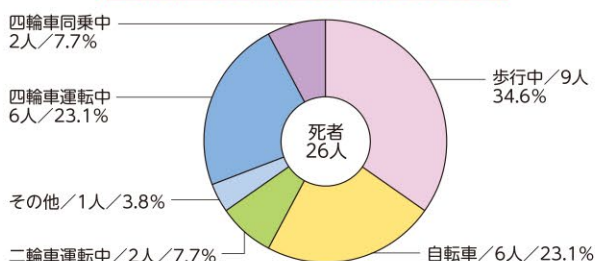
●高齢死傷者の年次推移

死者数は横ばい、傷者数は減少傾向で推移



●状態別死者数

歩行中と自転車で約6割を占める



高齢運転者の事故

一般原付以上を運転する高齢者が第1当事者となった（起こした）交通事故

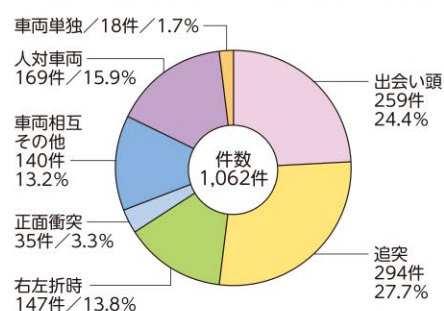
●高齢運転者事故の年次推移

事故が減少傾向にあるなか、高齢運転者事故は令和3年以降横ばい



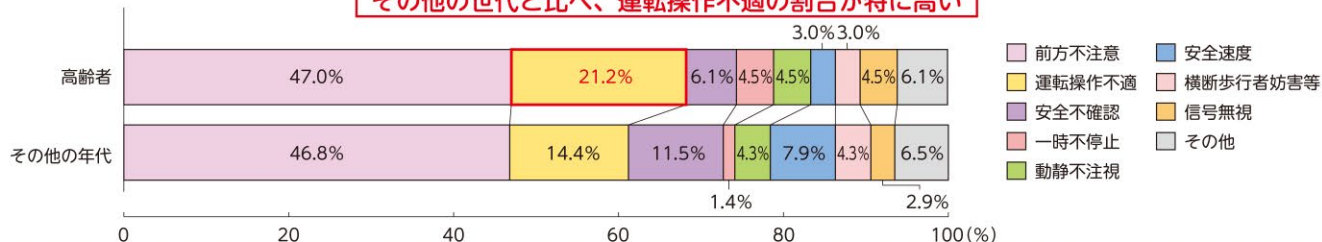
●高齢運転者事故の形態

出会い頭事故・追突事故が多い



●死亡事故の違反・原因割合（令和2年～令和6年）

その他の世代と比べ、運転操作不適の割合が特に高い



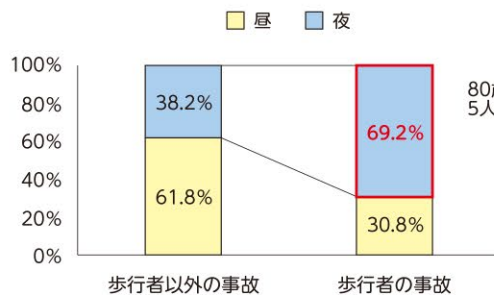
青だけど 自分の目で見て たしかめて

歩行者の事故

歩行者が死傷した事故

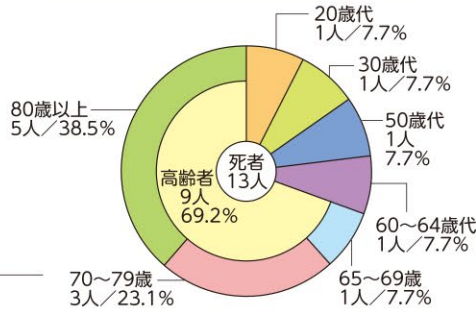
●昼夜別死亡事故発生割合

歩行者以外の死亡事故と比べ、夜の発生割合が高い



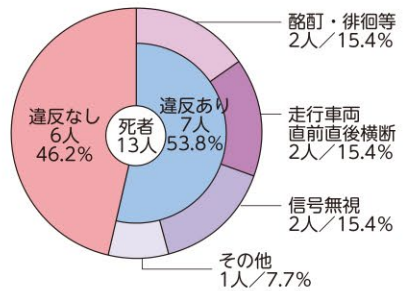
●歩行中死者の年代別

歩行中の死者の約7割が高齢者



●歩行中死者の違反別

死者の約5割に違反あり

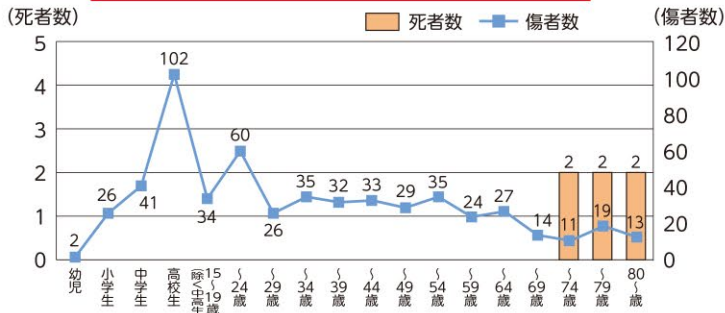


自転車の事故

自転車乗用者（同乗者を含む）が死傷した事故

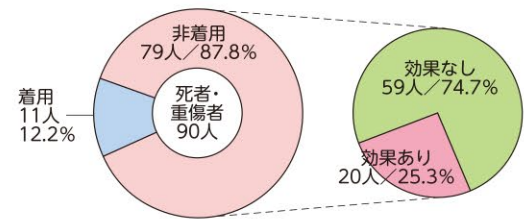
●学識別年代別自転車乗用中死傷者数

傷者は高校生が多いが、死者は全て高齢者



●死者・重傷者のヘルメット着用率と効果等

ヘルメット非着用者79人のうち20人は、着用していれば被害軽減の効果があったと思われる

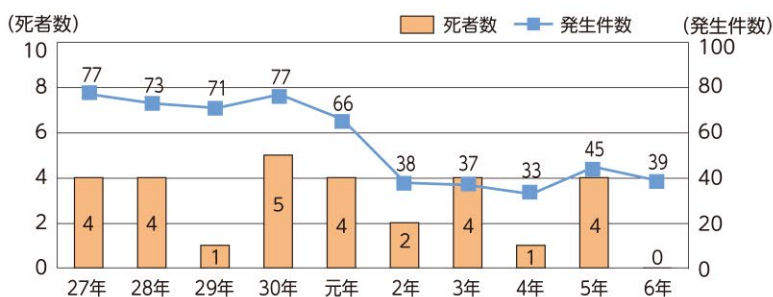


飲酒運転の事故

一般原付以上の運転者が飲酒（酒気帯びを含む）運転をして第1当事者となった（起こした）交通事故

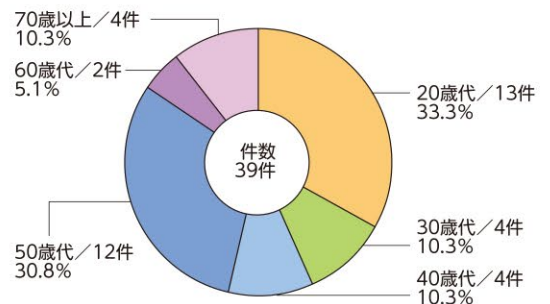
●飲酒運転事故の年次推移

令和2年以降、件数は40件前後で推移 令和6年は死亡事故ゼロを達成



●第1当事者の年代別発生状況

20歳代、50歳代による事故が多い

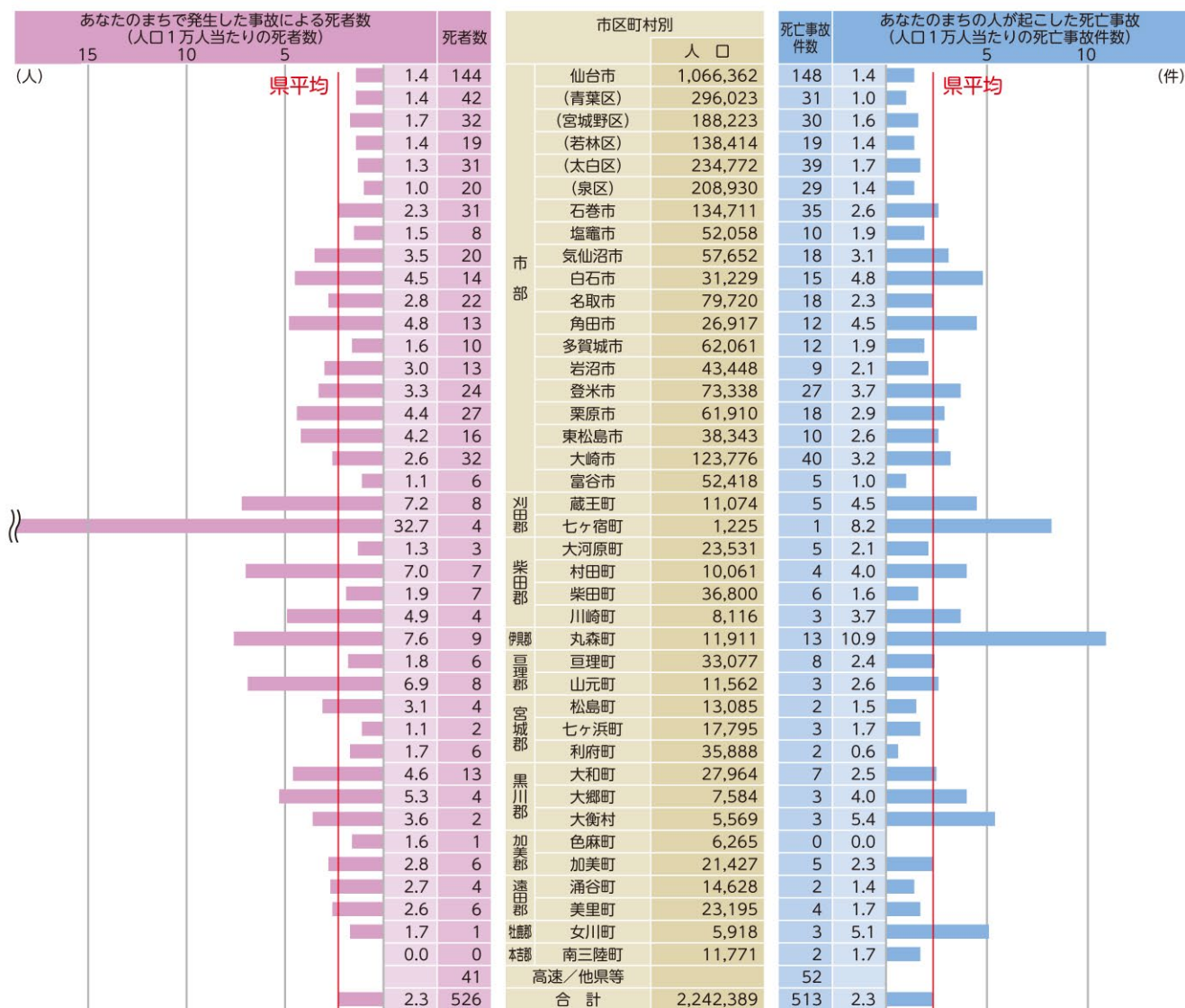


区分	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
発生件数	77	73	71	77	66	38	37	33	45	39
死者数	4	4	1	5	4	2	4	1	4	0
負傷者数	104	91	97	98	91	55	49	50	52	44



飲む前に 車じゃないよね？ 再確認

過去10年間の市区町村別交通死亡事故発生状況（平成27年～令和6年）

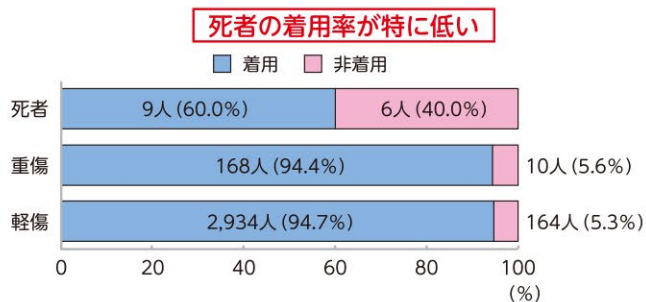


※人口は、令和6年1月1日現在の住民基本台帳人口（総務省）

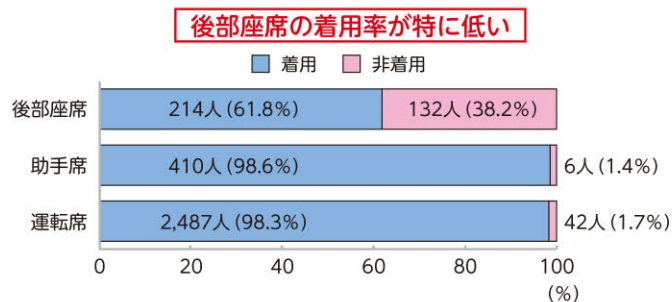
※富谷市は旧黒川郡富谷町を含む

シートベルトの着用状況（令和6年）

死傷者別シートベルト着用率



乗車別シートベルト着用率



交通ルール 守るあなたが 守られる